

4.4 景 観

(1) 環境保全の取り組みの状況

1) 環境保全措置の実施内容

景観に係る環境保全措置としては、事業の進捗に応じて表 84 の内容内容に取り組む。新設集積場では、剥土の際に発生する表土を土石に積み上げ法面に張り付けることにより（写真 91）、ススキ-ネザサを主体とする草地を回復し、周囲と調和する景観の形成に努めている（写真 92）。

なお、残壁の緑化は、最終残壁を対象に施工する計画であり、現段階では実施していない。

表 84 景観の環境保全措置

環境保全措置の方針	環境保全措置	環境保全措置の効果	実施状況
現況の植生を回復することにより、事業実施区域（集積場）を可能な限り周辺環境と調和した外観とする。	表土活用工	集積場がススキ、ネザサ等の草地となることにより、周囲と調和した景観になる。	実施
現況の植生を回復することにより、事業実施区域（残壁）を可能な限り周辺環境と調和した外観とする。	表土活用工	小段がススキ、ネザサ等の事業実施区域に生育する在来種の草地になることにより、残壁の人工的な印象が低減される。	未実施
	植栽工 (木本植物)	小段に高さ約 3m の在来種の低木が生育することにより、残壁の人工的な印象が低減される。鳥散布種子の発芽も期待される。	未実施



写真 91 表土活用工（左：表土、右：施工状況）



写真 92 新設集積場における植生の回復

2) 事後調査の内容

景観に係る事後調査の手法等は、表 85 と図 176 に示すとおりである。平成 28 年度までの調査地点は平尾台自然の郷、茶ヶ床、貫山、福智山の 4 地点であった。平成 29 年度以降は、事業の進捗状況をふまえ、調査地点を平尾台自然の郷、茶ヶ床、貫山、福智山、東谷市民センター、市丸小学校、呼野駅の 7 地点とした。

表 85 (1) 景観の調査内容

調査項目	調査方法	調査地点	期間等
眺望景観	写真撮影	平尾台自然の郷	平成 19 年 9 月 20 日 平成 24 年 4 月 4 日 平成 25 年 4 月 15 日 平成 25 年 10 月 28 日 平成 26 年 12 月 19 日 平成 27 年 11 月 20 日 平成 28 年 12 月 2 日 平成 29 年 12 月 14 日 平成 30 年 11 月 29 日 令和元年 11 月 29 日 令和 2 年 12 月 5 日
		茶ヶ床	平成 19 年 9 月 20 日 平成 24 年 4 月 4 日 平成 25 年 4 月 15 日 平成 26 年 4 月 3 日 平成 27 年 1 月 13 日 平成 27 年 11 月 20 日 平成 28 年 12 月 2 日 平成 29 年 11 月 21 日 平成 30 年 11 月 29 日 令和元年 11 月 29 日 令和 2 年 12 月 1 日
		貫山	平成 19 年 9 月 20 日 平成 24 年 4 月 4 日 平成 25 年 4 月 3 日 平成 25 年 10 月 28 日 平成 27 年 1 月 7 日 平成 27 年 11 月 2 日 平成 28 年 11 月 29 日 平成 29 年 11 月 21 日 平成 30 年 11 月 29 日 令和元年 11 月 29 日 令和 2 年 12 月 1 日

表 85 (2) 景観の調査内容

調査項目	調査方法	調査地点	期間等
眺望景観	写真撮影	福智山	平成 19 年 9 月 20 日 平成 25 年 4 月 3 日 平成 25 年 10 月 28 日 平成 27 年 1 月 7 日 平成 27 年 11 月 20 日 平成 28 年 12 月 6 日 平成 29 年 12 月 8 日 平成 30 年 9 月 27 日 令和元年 11 月 20 日 令和 2 年 11 月 18 日
		東谷市民センター 市丸小学校 呼野駅	平成 19 年 9 月 20 日 平成 30 年 2 月 1 日 平成 30 年 11 月 29 日 令和元年 11 月 29 日 令和 2 年 12 月 1 日

3) 環境保全の取り組み一覧

景観に係る環境保全措置と事後調査の実施状況は、表 86 に示すとおりである。平成 23 年 4 月以降、新設集積場で表土活用工を実施している。景観調査は、平成 22 年度から毎年実施している。

表 86 環境保全措置と事後調査の実施状況

調査年度	環境保全措置	事後調査						
	新設集積場における表土活用工の実施	眺望景観、圍繞景観						
		平尾台 自然の郷	茶ヶ床	貫山	福智山	東谷市民 センター	市丸 小学校	呼野駅
平成 22 年度	—	1 回	1 回	—	—	—	—	—
平成 23 年度	H23.4 開始	1 回	1 回	1 回	—	—	—	—
平成 24 年度		1 回	1 回	1 回	1 回	—	—	—
平成 25 年度		1 回	1 回	1 回	1 回	—	—	—
平成 26 年度		1 回	1 回	1 回	1 回	—	—	—
平成 27 年度		1 回	1 回	1 回	1 回	—	—	—
平成 28 年度		1 回	1 回	1 回	1 回	—	—	—
平成 29 年度		1 回	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回
平成 30 年度		1 回	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回
令和元年度		1 回	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回
令和 2 年度		1 回	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回

(2) 事後調査の結果

平尾台自然の郷、茶ヶ床、貫山、福智山、東谷市民センター、市丸小学校及び呼野駅から事業実施区域の方向を望む眺望景観は、写真 93～写真 99 に示すとおりである。

平尾台自然の郷では、事業開始 2 年目から形状の変化や色調の変化が視認でき、白色の裸地がみられるようになった（写真 93）。事業開始 3 年目には、順次施工している表土活用工によって植生が回復し、2 年目にみられた白色の裸地が目立たなくなっている。その後も表土活用工から一定期間を経過したエリアでは、裸地が目立たなくなっている。

茶ヶ床では、事業開始 2 年目以降、形状や色調の変化で視認できるようになった。茶ヶ床から望む新設集積場は、植生が回復し緑で覆われることにより色調の変化が抑えられている（写真 94）。

貫山と福智山からの眺望景観をみると、剥土と採掘が進むに従い白色の裸地が増えていることがわかる（写真 95、写真 96）。

東谷市民センター、呼野駅、市丸小学校からの圍繞景観をみると、事業実施区域の西側斜面の標高が、事業開始前の約 500m から採掘により約 480m に下がっているものの（写真 97、写真 98、写真 99）、本事業による変化は、事業実施区域の西側斜面の上端部の高さ約 20m と小さいことから、形状や色調による景観の変化は認められない。



写真 93（1） 平尾台自然の郷からの眺望

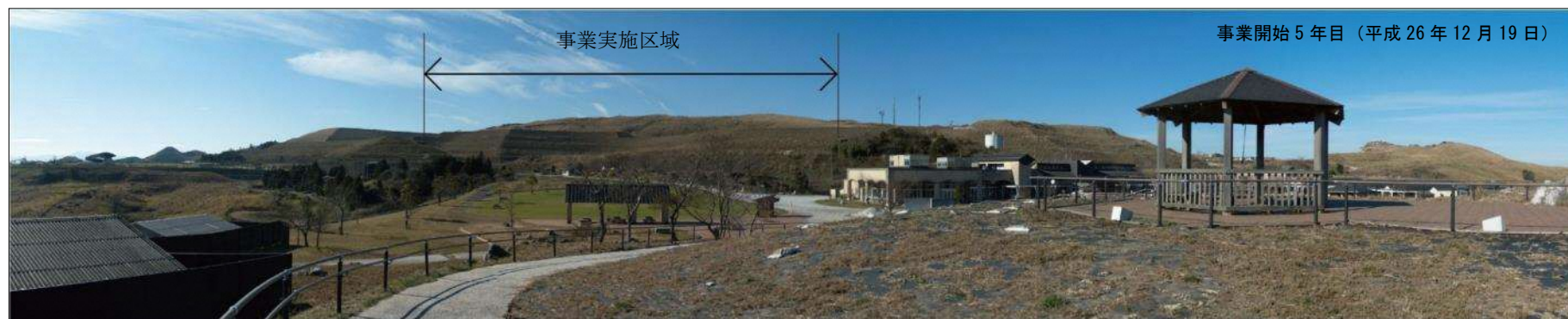


写真 93 (2) 平尾台自然の郷からの眺望

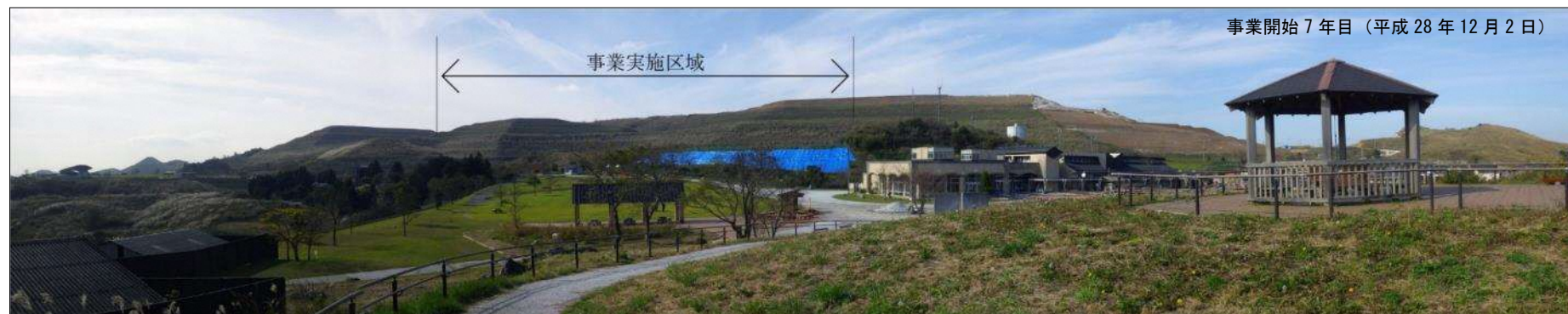


写真 93（3） 平尾台自然の郷からの眺望

事業開始 10 年目（令和元年 11 月 29 日）



事業開始 11 年目（令和 2 年 12 月 19 日）



写真 93（4） 平尾台自然の郷からの眺望



写真 94 (1) 茶ヶ床からの眺望



写真 94 (2) 茶ヶ床からの眺望



写真 94 (3) 茶ヶ床からの眺望

事業開始 10 年目（令和元年 11 月 29 日）



事業開始 11 年目（令和 2 年 12 月 1 日）



写真 94（4） 茶ヶ床からの眺望



写真 95 (1) 貫山からの眺望



写真 95 (2) 貫山からの眺望



写真 95（3） 貫山からの眺望



写真 95（4） 貫山からの眺望



写真 96（1） 福智山からの眺望



写真 96（2） 福智山からの眺望



写真 96（3） 福智山からの眺望

事業開始 11 年目（令和 2 年 11 月 18 日）

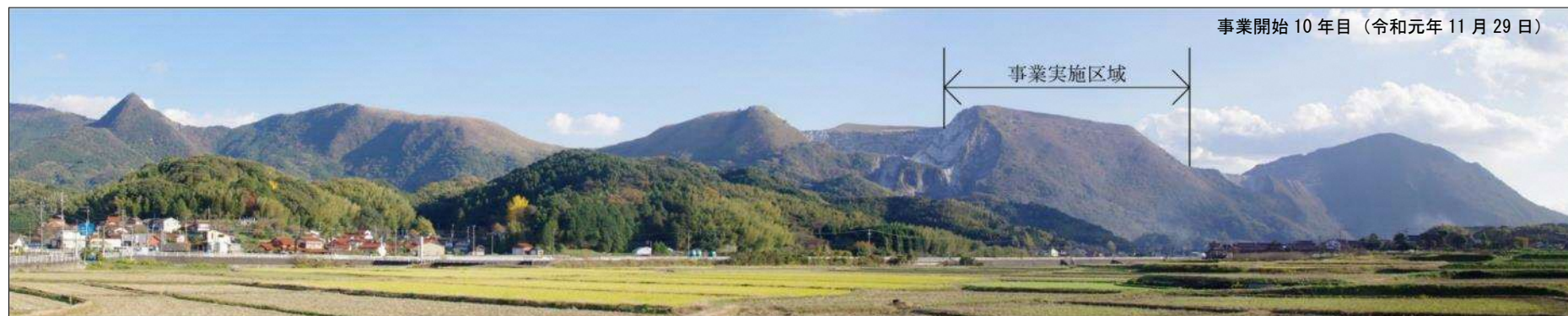


写真 96（4） 福智山からの眺望



写真 97（1） 東谷市民センターからの眺望

事業開始 10 年目（令和元年 11 月 29 日）



事業開始 11 年目（令和 2 年 12 月 1 日）



写真 96（2） 東谷市民センターからの眺望



写真 98（1） 市丸小学校からの眺望

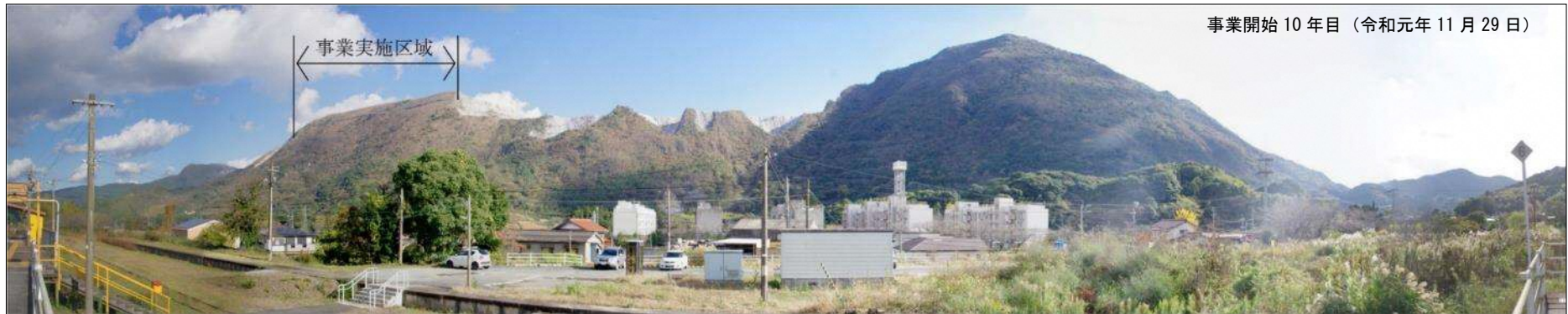


写真 98（2） 市丸小学校からの眺望



写真 99（1） 呼野駅からの眺望

事業開始 10 年目（令和元年 11 月 29 日）



事業開始 11 年目（令和 2 年 12 月 1 日）



写真 99（2） 呼野駅からの眺望

(3) 現状の評価と今後の取り組み

平尾台自然の郷や茶ヶ床からの眺望景観は、新設集積場の出現により事業開始2年目から色調や形状に変化がみられている。これに対し、集積場では順次、表土活用工を施し、法面をススキやネザサが優占する草地とすることにより、周囲と調和した景観とすることに取り組んでいる。

平尾台自然の郷の眺望景観では、事業開始3年目以降に白色の裸地の印象が緩和され、取り組みの成果が現れている。同様に茶ヶ床からの眺望景観についても色調の変化を抑える効果が認められる。

以上のことから、剥土を積み上げている新設集積場の法面では、ススキやネザサが優占する草地が形成されつつあり、植生の回復が周囲に調和する景観の形成に寄与していると評価できる。

今後は、新設集積場の緑化を仕上げるとともに、これから出現する最終残壁において表土活用工と植栽工に取り組む予定である。

(余 白)